

第1回 組織再編税制



2018.11.05

会計と経営のブラッシュアップ
平成30年11月2日
山内公認会計士事務所

本レジュメは、企業会計基準及び次の各書を参考にさせていただいて作成した。(企業組織再編の会計と税務 山田淳一郎監修 2016.6 務経理協会刊)
(組織再編税制を改めて読み解く 白井一馬・関根稔編著 2017.12 中央経済社刊)(実践ガイド企業組織再編税制 朝長秀樹編 2017.12 清文社刊)
(組織再編税制・グループ法人税制 関根稔外編 2017.4 法令出版刊)

I. 基本的な考え方

組織再編税制は、これまで、ともすれば完全支配要件、支配要件、共同事業要件等と言う要件で語られる税法の觀があり、難解であった。

しかし、平成29年度税制改正によって、立法趣旨によってシンプルに理解される方向へと変更された感がある。

区分	組織再編税制	備考
特例の概要	その法人が、その資産を「まだ持っている」と言い得る状態にある場合には、その資産は「帳簿価額によって移転させる。」移転資産は簿価引継ぎ(譲渡)が強制適用となる。	原則は時価移転である
税制の対象	(H13) 合併、会社分割、現物出資・事後設立 (H18) 株式交換、株式移転 非適格合併等における資産負債調整勘定の創設 (H22) 現物分配、適格現物分配 グループ法人税制の創設 (H29) スピンオフ、スクイーズアウト 分割型分割の分割後の支配する者と分割法人との関係継続を不要とする改正(継続保有要件を分割承継法人のみとする)	差額のれん で5年間の均等償却
考え方	(1) 当事法人の資産の譲渡損益の取扱い (2) " 株主の株式の譲渡損益とみなし配当の取扱い	

1. 適格要件

(1) 対価要件

合併等の被合併法人等の株主への対価は合併法人等の株式のみが交付される場合に限る。(除く三角合併)

例外① 端株買取の金銭交付

〃 ② 合併等反対株主への買取請求に基づく金銭交付

〃 ③ 親法人が、被合併法人株式の3分の2以上保有の場合の少数株主全員への金銭交付

(2) 2つの分類

① 企業グループ内の組織再編

比較的軽い適格要件

ⓐ 完全支配関係がある法人間で行うもの

ⓑ 支配関係がある法人間で行うもの

② 共同事業を行うための組織再編

様々な要件 .~~事件~~

(3) 要件の時点による3区分

① 過去の要件 — 5年50%超の支配(法法57③④、62条の7①)

② 再編時(点)の要件 — 完全支配要件、支配要件、共同事業要件

③ 未来の要件 — 繼続保有の意思(法令4の3)

(4) 形式要件にすぎない(再編時の要件)

組織再編税制を論じる場合、再編時の要件を主に論じることが多い。しかしこれは形式要件にしかすぎない。つまり、再編時の要件は、その一時点(1秒)にのみ存在すれば足りる形式要件でしかない。

そのことを明らかにしたのが、H29改正で導入されたスクイーズアウトだ。適格合併において、合併法人等が、被合併法人等の発行済株式の3分の2以上の株式を所有する場合は、その他の株主に対して、現金交付によって追い出す(スクイーズアウト)することを認めた(法法2十二の八、2十二の十七)。

(5) 形式要件にすぎないことの説明

従 前

① 再編前に株式を購入して完全支配要件を整える=是

② 再編の中で完全支配要件を整える(現金対価)=否

改 正

同 左

一部是の変更

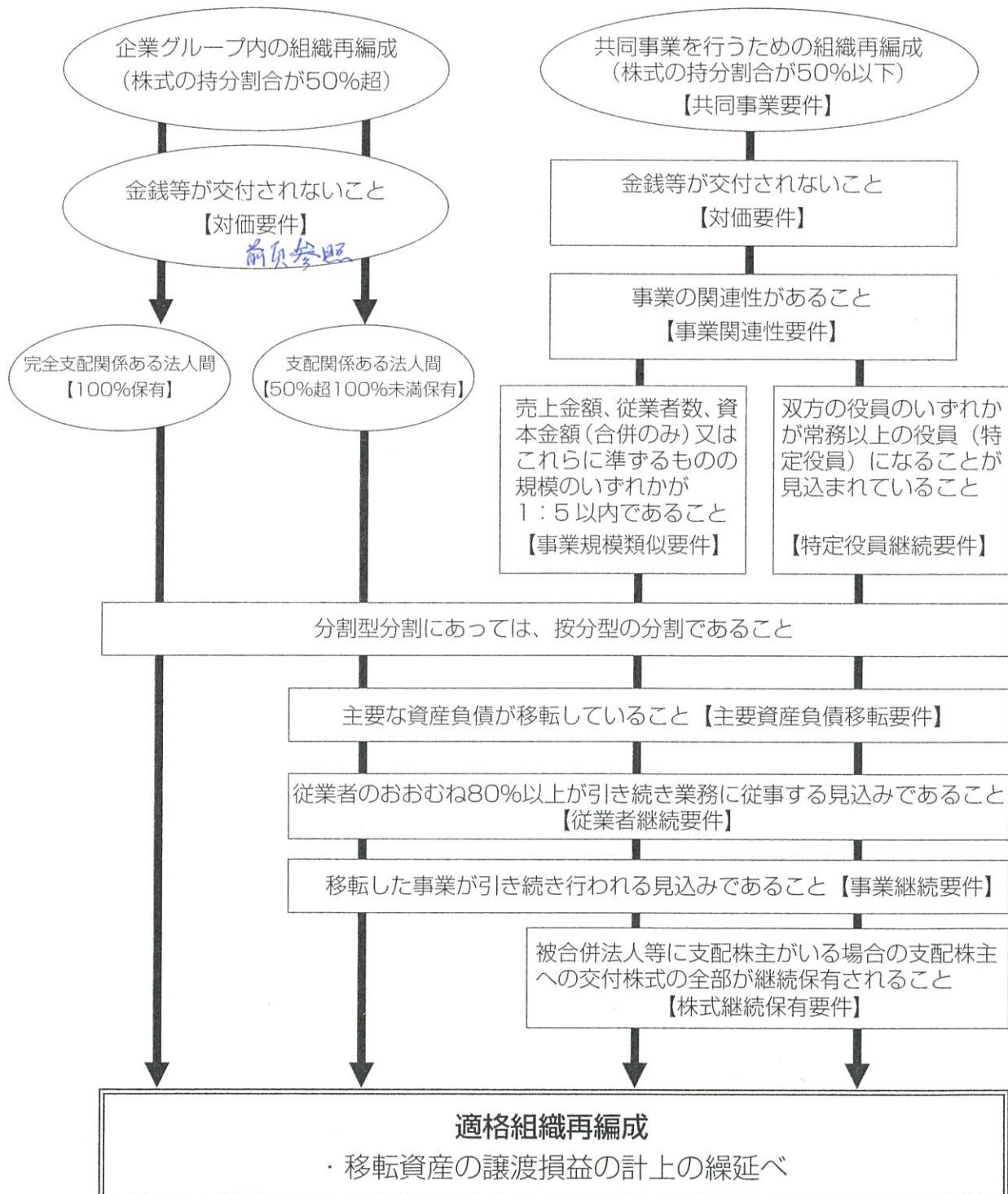
(親会社が株式の3分の2以上を支配する場合は、他の株主への現金対価によるスクイーズアウトを認める)

同 左

③ 再編後に少数株主が株式を売却する=是

→ 支配株主が存在しないスピンオフ税制(会社の一部門の分離独立)の採用もこのことを証明している(法法2十二の十一の二、2十二の十五の二、3)。

【合併・分割型分割の適格要件】



実践ガイド

企業組織再編手引

朝長英樹 外編 2017.12 清文社刊から

2. 過去の要件（5年50%超の支配）

- (1) これが要求されるのは、完全支配要件と支配要件の場合に限り、共同事業要件では要求されない。なぜなのか(See(5))。
- (2) 親鳥の懷に抱かれていた雛とみなして、過去に支配株主の下に存在した会社は、雛が抱える青色欠損金と資産の含み損の承継を認める。
従って、外部から購入した子会社が購入時点で有する青色欠損金と含み損は承継できない。 親鳥の懷で生まれたものではないからだ。
 この場合の親鳥(支配株主)の要件が、5年50%超の支配(内)の場合なのである。
- (3) 5年の支配の要求は、会計法の縛りである。会社法30条、31条は、国の債権は5年を超えて請求できず、5年を超えては履行できることになっている(国税通則法73条7年間、相続税法36条④6年間)。
- (4) 5年50%超の支配関係があれば、合併消滅会社や解散会社の青色欠損金が承継できる(法57②③)。
- (5) これは、支配関係を基準にした制限なので、そもそも支配関係を問わない共同事業要件の場合は、5年50%超の要件は問われない。さらに、支配株主は存在しないスピンオフの場合も要件としない。
- (6) 5年50%超の支配は、合併消滅会社の青色欠損金と資産の含み損の制限は、合併存続会社の青色欠損金(法法57④)と含み損(法法62の7①、②二)も制限の対象になっている。それは、逆さ合併を意識した法の作りだ。
 その結果として、資本金100万円の小規模の会社を適格合併したために、過去の要件、つまり5年50%超の支配を満たされない場合は、合併存続会社が保有する1,000億円の青色欠損金と、2,000億円の資産の含み損が使えないことになってしまいます。

5. 未来の条件（継続保有要件）

(1) 組織再編後の継続保有条件的意味するところは、二重の含み損の利用を防止するために存在する。
 ①、②

仮に、簿価3億円、時価1億円の土地を所有する会社が、これを適格分社型分割(法2十二の十三)で切り出した場合は、①親会社が、2億円の含み損を有する会社株式を有し、②子会社は、2億円の含み損の土地を所有することになる。

これを実現(②の土地を売却し、①の株式を売却)すれば、2億円の譲渡損が二重に利用できてしまう。

これを防止するために、親会社が所有する子会社株式について継続保有の意思を要件にする(法令4の36一八)。①

(2) 親会社への適格現物分配(法2十二の十五)では、子会社の含み損が親会社へ移ってしまい、二重の含み損が作り出せないため、継続保有要件は課せられない。

(3) 切り出しの方向 (上、下、横)

① 横への切り出し (継続保有要件必要) … 分社型分割

兄弟合併、分割型分割

この場合は、合併した会社、分割設立会社、分割承継法人が所有する
物件の継続保有が課せられる。

② 上への切り出し (継続保有要件不要)

親子合併、親会社を承継会社とする分割型分割、親会社への現物分配

③ 下への切り出し (継続保有要件必要)

分社型分割、適格現物出資

含み損のある資産を子会社へ切り出して、含み損を持つ子会社出資金を作り出す。

この場合は、親会社の子会社出資金について継続保有の要件が課せられる。

④ 斜め下への切り出し (継続保有要件必要) ①、②

株式移転、株式交換

① 株式を取得した完全親会社の株式と ③ 完全親会社から

親会社は、子会社株式の簿価承継と子会社の存在(含み損資産)によって分社型分割と同様に2重の損が出せるから、継続保有が課せられる(法令4の318、19)

⑤ 斜め上への切り出し (継続保有要件不要)

スピンオフ

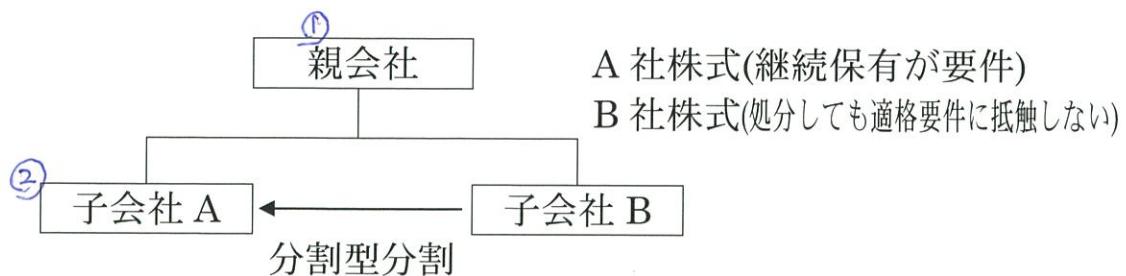
※ 兄弟合併と分割型分割は、本来二重の含み損が出せないので、継続保有を

要件とする必要はないのではないか?

(親会社が、合併、分割で割り当てた株式のみしか含み損不出(しない))

6. 継続保有要件の変更（分割承継法人に限定）

- ① 企業グループ内の分割型分割に係る適格要件（関係継続要件）は、^①支配法人と分割承継法人との関係が継続することが見込まれていることとする。^②



子会社 A の保有する含み損資産は？

つい、沿岸の含み損に何か行われてしまうのなぜや……

7. 共同事業要件

(継続保有要件必要)

被合併法人等の発行済株式の 50% 超を保有する企業グループ内の株主についてのみ、交付を受けた合併法人の株式の全部を継続して保有することが見込まれていることを条件にしている(法令 4 の 3④五、⑧六イ、⑩五、⑭五)。

これは、支配要件に基づく合併、あるいは会社分割についての継続要件と同等である。

~~メモ一事件~~

8. 適格合併（税務処理）

- (1) 被合併法人から合併法人への資産等の移転は簿価による。
- (2) 被合併法人において、譲渡損益は発生しない。
- (3) 被合併法人の利益積立金は、合併法人に引き継がれる。
- (4) 被合併法人の旧株の譲渡損益は発生せず、みなし配当も生じない。
- (5) 平成22年度税制改正
 - ① 合併法人において増加する資本金等の額の計算方法
 - ② 合併法人において増加する利益積立金額の計算方法
- (6) 支配関係等の定義(H22改正)
 - ① 完全支配関係
「一の者」が法人の発行済株式等の全部を直接若しくは間接に保有する関係。100%兄弟会社間、100%グループ内の三角合併を含む。
 - ② 支配関係
50%超の関係
- (7) 無対価合併は原則として非適格合併となるが、企業グループ内の合併で、単に対価の交付を省略しただけと考えられる場合は適格合併として扱われる。
- (8) 増加する資本金等の額
適格合併により、合併法人において増加する資本金等の額は、被合併法人の合併の日の前日の属する事業年度終了時の資本金等の額から、合併による増加資本金額等及び抱合株式の帳簿価額の合計を減算した額となる。
- (9) 利益積立金額
純資産の額 - 増加した資本金等 - 抱合株式の帳簿価額
- (10) 抱合株式
 - ① 合併法人が合併前から保有している被合併法人の株式をいう。
 - ② 抱合株式については、合併交付株式等の割当てを行わない場合にも、税法上は新株割当が行われたものと合併法人においてみなし配当の計算を行う。
 - ③ 適格合併の場合は、抱合株式の帳簿価額を資本金等の額から減算する。
 - ④ 譲渡損益の計算は行わない。
- (11) (6)①完全支配関係を判断する際には、発行済株式から次の株式を除外する。
⑤自己株式、⑥従業員持株会が取得した株式等の合計割合の5%未満の株式

II 組織再編税制（H29 改正）

1. 組織再編税制を読みこなすには

(1) 完全支配要件、支配要件、共同事業要件

— 理屈のない形式要件である

(2) 5年50%超の支配関係の有無

— 実質要件である

適格要件は満たすが、5年50%超を満たさないリスク

(前掲書③を参考)

(イ) 適格要件を満たさない

(ロ) 適格要件は満たすが、5年50%超の支配関係は満たさない

(ハ) 適格要件を満たし、5年50%超の支配関係も満たす



(3) 何故継続保有要件が存在するのか

仮に、青色欠損金100億円を抱えるA社が、2年前に買収した資本金100万円のB社を吸収合併したがために、A社が有する青色欠損金100億円が利用できなくなる。

2. 再編手法の分類

(1) 一覧表

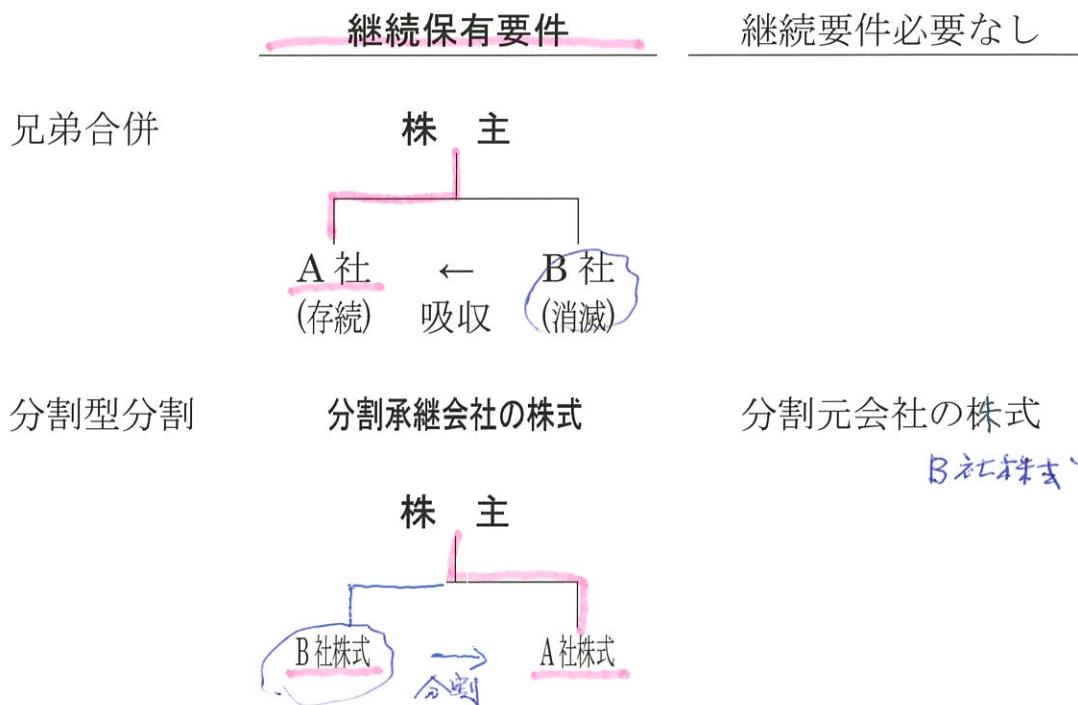
方 向	取 引	移 動	移 転
横	組織行為	人格承継	兄弟合併・分割型分割
上	組織行為 資本取引	人格承継 物の移動	親子合併・吸收分割 現物配当・現物分配
下	組織行為 資本取引	人格承継 物の移動	分社型分割 現物出資
斜め下	組織行為 資本取引	支配権の移動 〃	株式交換・移転 株式の現物出資
斜め上	組織行為	〃	子会社の分離独立(スピノフ)

3. 過去の要件

含み損と青色欠損金を承継するためには、
 横への移動の場合 — 5年50%超の要件が必要
 共同事業の合併等の場合 — //

4. 未来の要件

(1) 兄弟合併、分割型分割



(2) 共同事業要件

被合併法人の株式の 50%超を保有する株主が交付を受けた合併法人株式

6. 下への移動

(1) 過去の要件

適格分社型分割、適格現物出資

新設分割 — 分割元会社の資産のみが簿価承継されるので、5年50%超の過去の要件は必要としない。

吸收型分割 — 支配関係を獲得した後に、資産を簿価承継することになるので、承継した含み損の実現について5年50%超の過去の要件を必要とする。

適格現物出資 — 吸收型分割と同じ

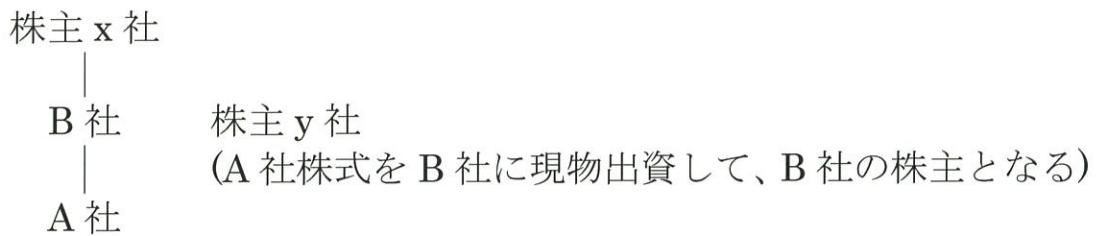
(2) 未来の要件（継続保有要件）

下への切り出しこそが、二重の含み損を作り出す組織再編行為である。親会社が簿価3億円、時価1億円の土地を会社分割、あるいは適格現物出資で切り出す。その結果、親会社は2億円の含み損を持つ子会社株式を有し、子会社は2億円の含み損の土地を所有することになる。これを実現すれば4億円の譲渡損が作り出せる。(先ず、子会社の土地を売却して2億円の売却損を出し、次に子会社株式を処分して2億円の売却損を出す。)

この場合に継続保有が要求されるのは、親会社所有の子会社(法4の⑥一、⑦一、⑬一、⑭一)であって、子会社の有する土地ではない。

7. 斜め下への移動

(1) 株式交換、株式移転



株式交換の場合は、過去の要件は必要ない。未来の要件(継続保有)によって、承継した含み損の利用が制限されているからだ(法令 4 の 3⑯⑰)。つまり、含み損が生じるのは、①株主が取得した完全親会社株式と、②完全親会社が取得した子会社株式だけであり、これについて継続保有要件を課せば、含み損を実現することはできない。

III. 繰越欠損金の利用制限

1. 適格合併

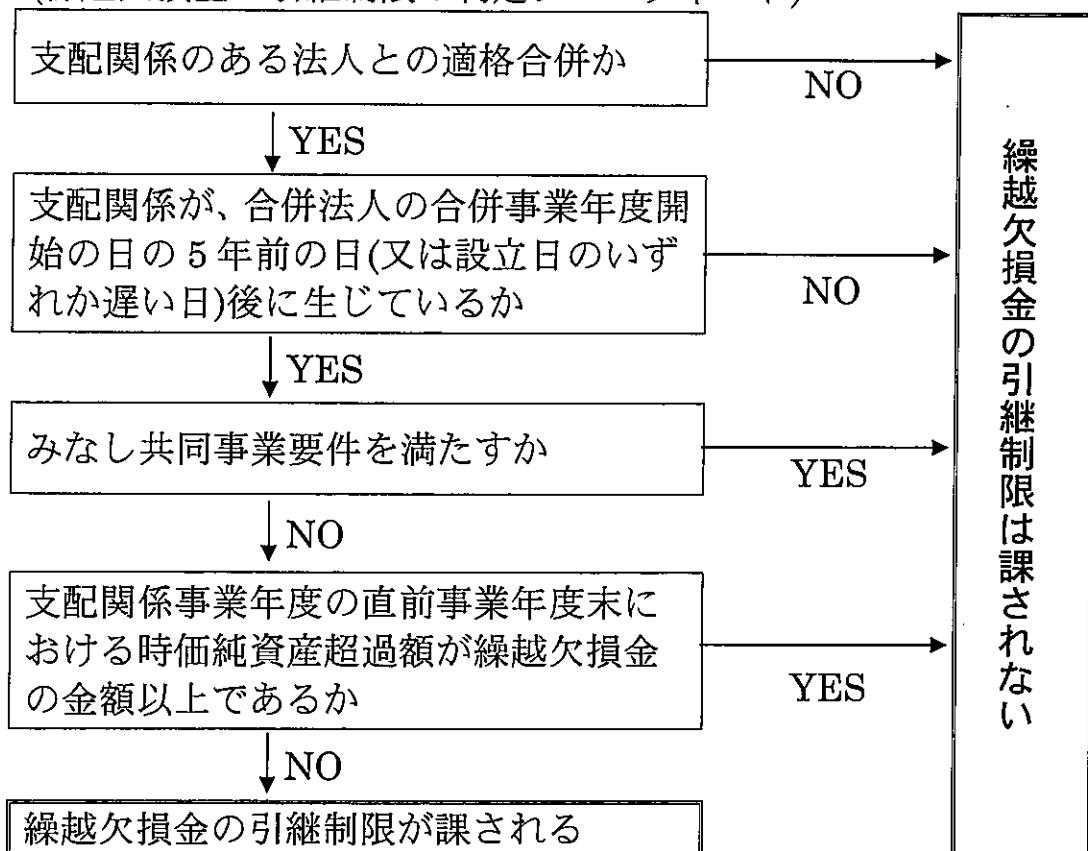
合併法人は、被合併法人の繰越欠損金を引き継ぐことができる。

2. 租税回避行為の禁止

多額の繰越欠損金を法人買収などにより不当に利用すること。

3. 5年以内のしばり

(繰越欠損金の引継制限の判定フローチャート)



I 現代の経営

①

①

第1回 われわれの事業は何か? (変化に対応し、成果をあげること(1)(2)(3))

30. 11. 05
30. 09. 03

1-1

30. 07. 02

30. 05. 02

30. 01. 01

29. 10. 02

29. 07. 03

一度起きた変化は戻らない

成果は結果・焦点 企業とは成果をあげること

目標・目標・・・

会計と経営のプラスチックアップ

平成 29 年 4 月 2 日

山内公認会計士事務所

(参考にして趣旨を学んだ本)

- (1) もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら(2009年ダイヤモンド社発行 岩崎夏海著)
- (2) マネジメント 基本と原則 エッセンシャル版(2001年ダイヤモンド社発行 P·F·ドラッカー著 上田惇生訳)
- (3) 現代の経営(1996年ダイヤモンド社発行 P·F·ドラッカー著 上田惇生訳)
- (4) The Practice of Management(1954年 Peter F. Drucker)
- (5) ドラッカーへの旅(2009年ソフトバンク クリエイティブ発行 ジェフリーア・クレイムズ著、有賀裕子訳)
- (6) ネクスト・ソサエティ(2002年ダイヤモンド社発行 P·F·ドラッカー著 上田惇生訳)
- (7) ビジョナリー・カンパニー 時代を超える生存の法則(ジム・コリンズ 日経 BP 社刊)
- (8) 孫子兵法 連環画(1990年浙江人民美術出版社発行)

1. 野球部に入部して、みなみの言ったこと

「夏の大会」に負けて、3年生が引退した直後の高校2年生の7月半ば、みなみは、野球部のマネジャーになった。そして、「野球部を甲子園に連れていく」という明確な目標を持った。「どうやったら連れて行けるかを考える前に、それは、みなみにとって使命だった。そう決めたら、すぐに行動に移した。

ところが、いざ入部してみると愕然とさせられた。

みなみが初めて練習に参加した日、多くの部員が、ほとんどなんの理由もなしに、練習をさぼっていた。

「私はこの野球部を甲子園に連れて行きたいんです。」というみなみの言葉に全部員23名のうち出席していた、たったの5名の反応は、すべて否定的なものだった。監督の加地は、「それはさすがにムリじゃないかな。その目標はあまりにも現実とかけ離れているよ。」と言った。(経営者の役割=経済的成果をあげること)

幼なじみのキャッチャーの柏木次郎も、「おまえ、本気なのか。初めから大きなことは言わないで、三回戦突破くらいを目標にしておいた方が無難だよ」と言った。結局、みなみの考えに賛同したり、協力を申し出たりする人間は、一人もいなかった。

それでも、みなみはへこたれたりはしなかった。逆にモチベーションを高めていた。

猪俣俊一先生

計画目標は、20%増とかいうのが一般的
計画目標は、200倍、300倍以上必要がある
そのため努力を要する。

8. 成功をもたらしたものの変質そして変化

平成 28 年 2 月 1 日 (月)

過去に成功をもたらしたもののが変質している。

ドラッカーが「日本では、2000 年の初めになお労働人口の 1/3 が製造業で働いている。この国が競争力を維持してゆくためには 2010 年までにこれが 1/8 になっていなければならない」と評した。ところが、2016 年になってもそのような大きな変化(現在も 30% 以上)はない。日本は変化していないのではなく、世界が変化して、その結果、日本の強味は大きく縮小した。

流通は現代の重要産業である。しかし、1960 年代後半に流通革命の旗手としてスーパー・マーケットが登場した頃、業界は暗黒大陸と呼ばれていた。

当時、東京大学の林周二助教授の「流通革命」を読んだ。1960 年代の製造業の合理化と生産コストの低減を受けて、なおそれに反応しない弾力性のない硬直化した流通機能の進化の必要がテーマであった。流通過程の複雑さと後進性を指摘し、流通の近代化による大量消費の必要性、何層もの卸を整理してメーカーから小売までの経路、すなわち流通チャンネルを太く、短く、多くする必要があると説かれていた。その後 50 年以上を経て、スーパー、コンビニ、宅配の進化、大型で新しいモールなどを見ると流通革命は実現したと思える。

同様のことが、現在の情報革命にも言えることではないか。

アマゾン、カードットコムなどの盛況は、e コマース時代の到来を思わせるが、全商取引に占める EC 化比率は、日本では 4% を超えた程度であり、欧米の 10% を超える比率と比較すると未だ低い。新聞、雑誌、教育や人材開発のウェブ化も遅々として進んでいない。

しかし、変化の予感はあり、流通革命に要した期間約 50 年に較べると、情報革命は未だ 20 年そこそしか経過していない。20 年後に人間の労働の 50% は機械に変転換されるという話もあり、変化は急激に進むかもしれない。

情報革命は、人の作った組織を変化、短期化するだろう。

会社の寿命は 30 年というが、今後、それほど長命な企業はほとんどなくなるのではないか。約 5 年前、沖縄における長寿企業の調査を行ったが、約 20,000 社の沖縄の会社中 50 年以上継続しているものは 100 社(0.5%)程度であった。企業の寿命は短くなり、それに比較して働く人の労働期間は 50 年へと変化しつつある。



変化とスピード

(10月のごあいさつ)
平成29年10月1日(日)

先週、西安の観光旅行に行った。

行って驚いたのは、始皇帝の兵馬俑と長安城と道路の車の多さであった。始皇帝は不老不死の薬を求めたというが、人一倍聰明で勤勉な始皇帝がそのような不合理なものを求める筈はなく、少しでも長く、多くの仕事をしたいと、健康長寿の薬を求めたのであろう。そして後世にその偉大さを残さんと造った始皇帝陵の兵馬俑を見て、戦士の活気と戦馬や戦車の精巧さと構想・規模の大きさに息をのんだ。始皇帝が2200年前に望んだ健康な生命は先見の明であった。

シルクロードの起点である長安城は、2000年を超えてその巨大な輪郭と面影の一部を陝西省の首都西安市に残している。バスで市街を走り乍ら、本の知識を借りて往時の繁栄を想像した。

中でも最も驚かされたのは、道路に溢れる自動車の多さである。西安市(市は日本の県に当る)の面積は、 $10,990 \text{ km}^2$ (大阪府 $8,395 \text{ km}^2$)、人口 825万人(大阪府 880万人)で、人口の規模は中国全都市の中の第23位ということであるが、その車の多さは、東京より混雑している感じがした。2年前に行った上海、4年前の北京と同じイメージで、オートバイの多さも目に付いた。

ガイドの話によると、今から30年前に西安市で結婚するカップルの最必需品は、①自転車、②時計、③ミシンだったという。いずれも働いて生活を維持、向上させるようなイメージである。1978年から始まった鄧小平の改革開放政策は中国を大きく変化させた。そして今から15年前には、①テレビ、②自動洗濯機、③冷蔵庫と変化した。生活の向上と余暇の重視が想像できる。

現在の西安の人々の最も関心のあることは、健康な生活ということであった。中国において、富裕層が増加している。その最先端地とは言えない西安においても人々の生活の向上や多様化の要求は確実に変化、進展していることがわかる。日本の歩んできた行程をビデオで早送りしているような中国を感じながら、変化と向上の極致を想像してみた。

2. 野球部のマネジャーになって、初めてマネジメントを読む

読み進むうちに、不意に「マネジャーの資質」という言葉に突き当って、みなみは自分にその資質があるのかと思って、ドキッとした。

そこにはこうあった。「マネジャーにできなければならない仕事は、そのほとんどが教わらなくとも学ぶことができる。しかし、学ぶことのできない資質、後天的に獲得することのできない資質、始めから身につけていなければならぬ資質が一つだけある。才能ではない。真摯さである」みなみは、その部分をくり返し読んだ。

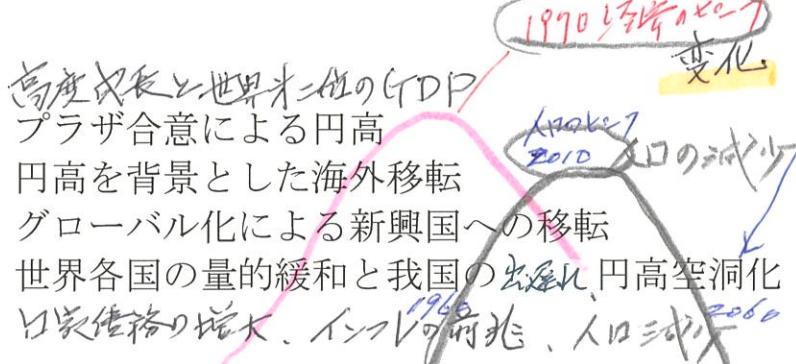
(注)真摯さとは人柄のことである

トヨタは社会洞察家

○世界中の先進社会が転換期にあるなかで、日本ほど大きな転換を迫られている国はない。日本が50年代、60年代に発展させたシステムは、他のいかなる国よりも大きな成果をあげた。しかし、まさにそのゆえに、今日そのシステムが危機に瀕している。すでに周知のように、それらの多くは放棄して新たなものを採用しなければならない。あるいは徹底的な検討のもとに再設計しなければならない。今日の経済的、社会的な行き詰まりが要求しているものがこれである。

空洞化の経過

1980年後半
1990年中頃
2000年代
2010年代



海外生産比率

1985年度	3.0%
1990	6.4
2009	17.8

国内における雇用機会の喪失、デジタルオートメーションの進展、地域産業の崩壊、技術ノウハウの劣化、国際競争力の喪失

人口構造の変化、高齢化

○事業とは変化、変動する顧客の要望に対する挑戦
は対応である。

(社会)(顧客)

正しい政策

日本の最大の二つの課題 (ジム・ロジャース) 減税と歳出削減

- ① 1990年ハブル崩壊 ... 同郷にある企業が銀行をつぶす・救済(新陳代謝)
淘汰
- ② 減税と歳出削減 ... 減税と歳出削減(政治家・官僚の努力拡大の弊害)

(マネジメント・エッセンシャル版 29~36、137~141 頁)

集団が、一つの目標を達成しようという時、その集団(組織)に成果をあげさせようというのがマネジメント(経営)である。(経済的成果)

○目標設定において中心となるのは、マーケティング(顧客の創造)とイノベーション(価値の創造)である。なぜなら、顧客が代価を支払うのは、この二つの分野における成果と貢献に対してだからである。

○市場についてのデュポン社の話は聴くに値する。同社が成功した時、独占的供給者の地位を維持するのは、開発コストを回収するところまでである。その後は、特許権を開放し、競争相手を作る。100の80%は、250の50%よりも小さい。供給者が複数の時、一社では想像できないような使途の発見と発展があり、市場は急速に拡大する。(創業者利益と市場の拡大のバランス)

○アメリカで鉄道が衰退した理由はその職場に魅力が無くなったからである。経営資源の三つの目標が確保できなくなったからである。三つの経営資源である物的資源、人的資源、資金についての目標が必要である。特に良質の人材と資金を確保できなければ企業が永続できない。

○マーケティングの目標は、①既存の製品についての目標、②既存の製品の廃棄についての目標、③既存の市場における新製品についての目標、④新市場についての目標、⑤流通チャンネルについての目標、⑥アフターサービスについての目標、⑦信用供与についての目標である。
(すなわち、顧客の創造である)

○必要なものは、長期計画ではなく戦略計画である。①戦略計画は魔法の箱ではない。思考であり、資源を行動に結びつけるものである。②戦略計画は予測ではない。それらは道具にしかすぎない。戦略計画とは、手法ではなく責任である。③戦略計画は、未来ではなく、すでに起こった未来に関するものである。④戦略計画は、より大きなリスクを負担できるようにすることである。

Strategy is easy, operations is difficult.

戦略 — 失敗がすぐには解らない

パールハーバーでの戦艦攻撃(航空母艦にすべき)

間違ったことを上手にやることが最も大きな問題

戦術 — すぐに結果が出る

エイノベーション — 制約からの脱出、革新(価値の創造)

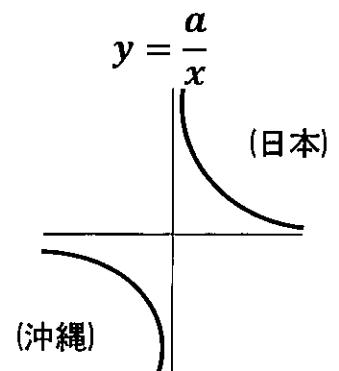
M マーケティング 戦略 — ビジョン — 戦術
(車の設計) (車の生産) (車の運転)

Innovation
Marketing

10. 政治家の数学的思考

平成 27 年 2 月 1 日 (日)

アメリカの対日戦略、二つの世界の創設と分数曲線
 これはオドロキ！！日本を二つの世界に分けた分数関数！！
 「一ドル＝三六〇円」は日本の輸出促進 — 経済重視
 戦後日本の経済再建は、輸出の促進であり、それは再軍備をさせない再建、戦争の放棄である。
 「一ドル＝一二〇B円」は沖縄の輸入促進 — 軍事基地重視
 米国にとって第一の目的は、沖縄の米軍基地であり、そのための経済的諸条件の整備を図ったのは、基地の存在による輸入への依存と経済的安定である。



瀬長亀次郎の家賃発言と基地の積分思考

沖縄の政治家で、尊敬する人は誰かと問われて、瀬長亀次郎と答えた。

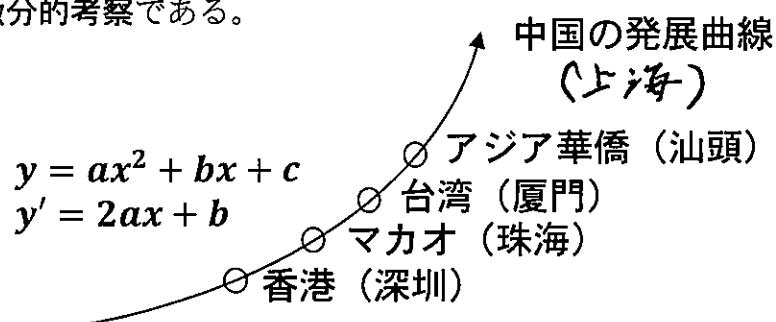
大衆左翼運動家で沖縄人民党を結成し、書記長、那覇市長、衆議院議員、日本共産党副委員長を歴任した瀬長亀次郎は、沖縄の米軍基地について、家賃をもらわなければ…と発言したという。それは米軍基地の存在について、地主の小さい軍用地代や情けない補助金を超えた目に見えない沖縄の対価を積分すれば“大きな家賃”になるという考えだと思った。

沖縄全体の家賃（沖縄という全体の使用料、即ちソフト的な考え方）に着眼している一流の政治家の思考に感心した。

$$F(x) \text{瀬長亀次郎の積分} = \int f(x) \text{沖縄の米軍基地} dx$$

鄧小平の発展曲線、微分思考

鄧小平は、中国社会、経済の発展という大きな構想（曲線）をして、その実現を導関数でとらえている。そして「特別区が窓口である。技術の窓口、管理の窓口、知識の窓口、または対外政策の窓口でもある。」と述べている。深圳、珠海、廈門、汕頭を中国の発展曲線の各接点とすれば、その接線が深圳を香港返還を視野に入れた海外資金の受入れと政治的な準備、同様に珠海をマカオ返還に備え、廈門を台湾問題の解決として視野に入れている。汕頭は東南アジアと香港の華僑の資金の受け皿という経済的目的。これらは発展曲線の接点、導関数であり、微分的考察である。



(現代の経営 第4章シアーズ物語)

変化(變化)を見つける
それに対応する!!

- 事業のマネジメントとは何か、事業のマネジメントには何が必要か、変化を見つけるそれに対応することである。

(事業といふものは顧客の創造である) …事業の目的

事業のマネジメントは何が原因で変化するか

— この答はシアーズ・ローバックの物語に優るものはない

変化(變化)
を見つける
ためには、
何をするか?

○農民の孤立した市場の理解と認識

— 新しい流通チャンネル、市場の開拓

農民、農村の変化を見つける

○五つの領域におけるイノベーション (第一に市場を見つける)

- ① 農民のニーズに応える商品のメーカー
- ② 大都市に行けない農民のための通信販売カタログ
- ③ 売手は、「委細なく返却致します」
- ④ 通信販売の低コスト輸送の発送工場
- ⑤ 人間の組織を作りあげる

○経営者

リチャード・シアーズ (創業者・社名)

1886年カタログによる時計の販売を始め、1893年エローズとシアーズローバックを設立

— ジュリアス・ローゼンウォルド (市場の確立)

第一期・農民ニーズに対応 — オッド・ドアリング (発送工場)

農村を歩いて、農民は何に不自由し、何を欲しているかを徹底して調査した

— ロバート・E・ウッド (第二期・市場の変化、小売店に転換)

交通革命への対応、郊外進出、都心の出入口でキャッチ、分権制度

— T・V・ハウザー (組織と人材の育成)

1978年 店舗数 900 総売上 172億ドル (小売業世界一) 1987年売上 266億ドル

— 時代の終りか (広報・女性向けファッショント・通信販売)

ライバルのモンゴメリ・ウォードなどの競争激化、転機

(イノベーションとは?)

いかなる事業にも、三種類のイノベーションがある。すなわち、①製品とサービスにおけるイノベーション、②市場におけるイノベーションと消費者の行動者価値観におけるイノベーション、③製品を市場へ持つて行くまでの間におけるイノベーションである。

ドラッカーによれば、既存の製品の改善とブランド力の強化に焦点を合わせただけのイノベーションは、重要なことを見逃すという。真のイノベーションとは、顧客の期待を変えるものだというのである。

明日とは機会のことである。

ドラッカーにとつては簡単なことだった。そのような意味でのイノベーションを理解できなければ、事業も理解できない。

ドラッカーのいうイノベーションを行つたのが、スター・バックスだった。スター・バックスは一九七一年に最初のコーヒーレストランを出店し、二〇〇六年には三七か国一万二〇〇〇店となつた。

スター・バックスの副社長ドロシー・キムによれば、最初から普通のコーヒーレストランにするつもりはなかったという。家と仕事の間にあつて、息抜きの場となることを目指していた。

スター・バックスが提供するものはコーヒーではなかつた。場所だった。「いつでもどうぞ」という場だった。今日では、そこでインターネットを楽しむことも含まれている。スター・バックスは居間であり、待ち合わせ室であり、仕事からの息抜きの場、授業の合間の休息の場などだった。たんにコーヒー豆を挽いて、お湯を入れ、濾してもらうだけのところではなかつた。それは、かつていかかる顧客もコーヒーレストランには期待していなかつたものだつた。

1. (1910年頃)、八代一郎の事業の成功(工場を増加)。

→ 次に、自動車用工具の輸送手段として3台の車を購入する。

→ これが、30年後の二輪車である。

このとき、少しだけC.T.と名づけられた。

→ これが、これが起つてはならないもの、という最初の車両が誕生した。

春から夏の間で走行開始。

2. 父親の死後、父、父。

△

→ 彼は、父の死後、車を手に入れた。 (車は父の死後、車を手に入れた。)

→ ディズニーは、この困難に立ち、後のGMを構築し、新しい機会。

市場に利用する(中小の自動車メーカーと部品を共同化)。

(適用)

3. 従って、最初に走る車は、"中山の自身が、社会経済、

市場や組織、技術等をどうして(30)中山の今後

有効か?"と自分で決める。

4. ニアーラー・ハーバーは、その設立の当初より、(窓の外の風景)

金精の金と同様に、(購買力が高まることが必ずある)。

ここで考へていた。

トヨタの歴史 - - - これは何ですか?

原文

孙子曰：兵者，国之大事也。死生之地，存亡之道，不可不察也。

故经之以五，校之以计而索其情：一曰道，二曰天，三曰地，四曰将，五曰法。道者，令民与上同意也。故可与之死，可与之生，而不诡也。天者，阴阳、寒暑、时制也。地者，高下、远近、险易、广狭、死生也。将者，智、信、仁、勇、严也。法者，曲制、官道、主用也。凡此五者，将莫不闻，知之者胜，不知者不胜。故校之以计，而索其情。曰：主孰有道？将孰有能？天地孰得？法令孰行？兵众孰强？士卒孰练？赏罚孰明？吾以此知胜负矣。

将听吾计，用之必胜，留之；将不听吾计，用之必败，去之。

计利以听，乃为之势，以佐其外。势者，因利而制权也。

兵者，诡道也。故能而示之不能，用而示之不用，近而示之远，远而示之近。利而诱之，乱而取之，实而备之，强而避之，怒而挠之，卑而骄之，佚而劳之，亲而离之。攻其无备，出其不意。此兵家之胜，不可先传也。

夫未战而庙算胜者，得算多也；未战而庙算不胜者，得算少也。多算胜，少算不胜，而况于无算乎？吾以此观之，胜负见矣。





微分の定石

(変化の節目と瞬間を把握する)

2018.16.05
H30.9.5
H30.12.2
H30.12.2

会計と経営のブラッシュアップ
平成30年3月5日
山内公認会計士事務所

次の図書等を参考にさせていただきました。

(微積分のはなし 大村平著 1985.3 日科技連出版社刊)(予測の技術 内山力著 2017.3SB クリエイティブ刊)

(微分・積分を知らずに経営を語るな 内山力著 2012.3PHP より)

(Excelで学ぶ微分積分 山本将史著 H24.8 オーム社)(鄧小平 エズラ・ヴォガール 益尾知佐子訳 日経 2018)

I 世の中(顧客)の変化

変化の研究と追求

経営も経済も都筑

1. 平家物語

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり、沙羅双樹の花の色、おごれる者も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。盛者必衰のことわりをあらわす。形も、位置も、温度も、世相も、価値観も…すべてが変化する。

微分は変化の節目と瞬間(導入期、成長期、成熟期、衰退期)を把握する。

微分は変化の仕方を勉強するものである。

微分は、どう変化しているか (変化のようすを調べる) (ライフサイクル)

この関係、どのようにして積分の計算に微分が入って来たか。

積分は、その結果どうなったか (動いた結果) (グラフの面積)

△: いじはいて
△の面積に並ぶ

微分は一瞬の勢い、変化をとらえる。(動き) 接線によって(台風の変化)

瞬間の変化量 (カメラのシャッターで写真) 微分は△の面積の極限の変動する変化量 (電車の中で感じる揺れ)

変化率を求める

変化率とは接線の傾きである

変化している瞬間の動き、傾きは、1点で接する接線で表す。

接線は、曲線に対して1点のみで接する。

このことの発展が積分の計算に貢献 (待望の到来) することになる。

21Cの初めにおいてアジアの次の変化を理解するために最も役に立つのは鄧小平を理解することである。アジア最大の問題は中国であり、その中国に最も影響を与えたのは鄧小平であった。

鄧小平は、中國の変化を体現した接線であった。中國の明日を焼かなければ

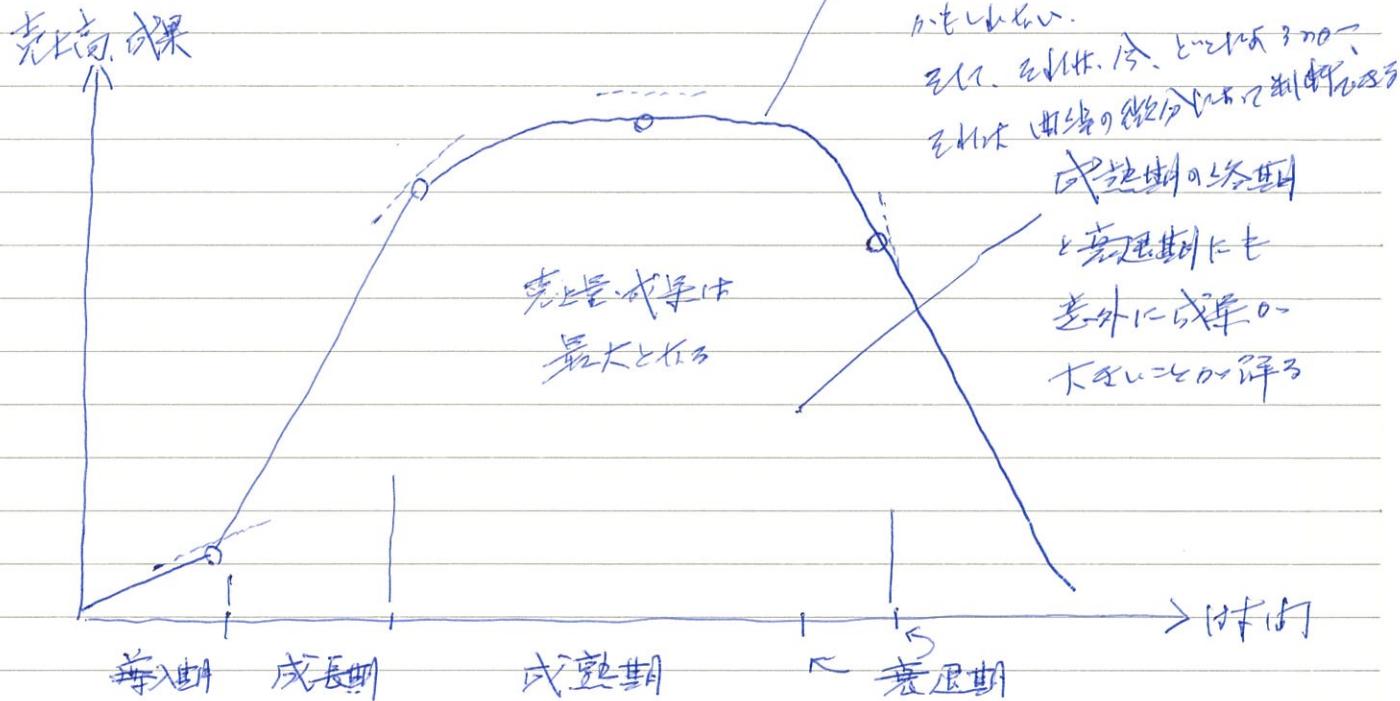
△の極限の変化率

変化は導入、成長、成熟、衰退などの時期で起る 1-2

No.

微分と積分の関係

売上高 成績



○ 微分は変化の筋道を表す、積分は方法を表す

○ 積分は、ルートに回転する筋道を表す

コノルニス・テカルト・ニートンなどの天才も、積分を方法を明確にする方法で、
明確にするため、方法は、

「昨日やれた」、 $x_0 \rightarrow x$ (微分)、元のまま乗算しておけない (積分)
といふものである。

数学の原点は、「いかん (複雑化型象) 単純化する」といふこと

微 - 小さく。

合 - 集合する。

アドバの着率 - 微分すると - CD になる - CD を積分すると元に戻る

積分は - 合成しておけば - かかって (年)

PROGRAM MANUAL

中1の将来は 2次曲線か3次曲線か

4

PROGRAM NAME

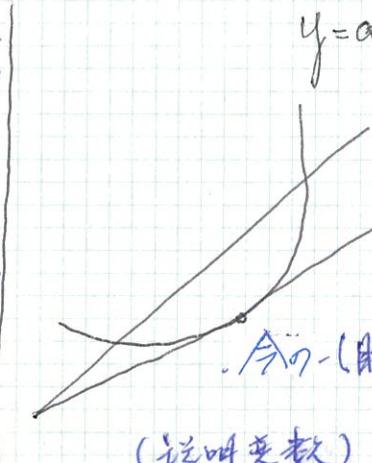
PROGRAM NO.

PROGRAMMER

処理図

処理手順

被説明変数
知りたいもの



曲線、将来の初回

$$y = ax^2 + bx + c$$

$$y' = 2ax + b$$

の傾向

$$y = \begin{cases} \text{(左上, 上)} \\ \text{(左下, 上, 下)} \end{cases}$$

今(瞬間)

(説明変数)

将来の

平均行動

将来の曲線

(平均速度)
(落下時間と距離) — 将来を示す

速度の変化、重さ (距離の増加)

(各時点での落下速度) — 現在の初回

加速度

(瞬間の変動) — 現在

邓小平…中国を豊かに強い国に!! 動かせ! そんたくせ! 中国と人

減速の傾向性を示すから、口元を一つにまとめていく、強いて後者より前者

標準的中(中)を示すものがいい、将来は 2次曲線か 3次曲線か 対数曲線

因数	走行距離を表す因数	$y = f(t)$	流れ	将来
導因数	位置の変化、速度の変化、速度 変化の傾向	$y' = f'(t)$	変動点 上, 下	傾向
導導数	加速度	$y'' = f''(t)$	傾き	現状

1mの高さから、初速 15 km/秒でボルを直上に投げ上げた時、

大約後のボルの高さは、

曲線

$$y = -\frac{1}{2} 9.8 t^2 + 15t + 1 \text{ (m)} \quad \text{— 流れ}$$

このとき 大約後のボルの速さは、

導因数

$$y' = -9.8t + 15 \text{ (m/秒)} \quad \text{— 傾向}$$

加速度は

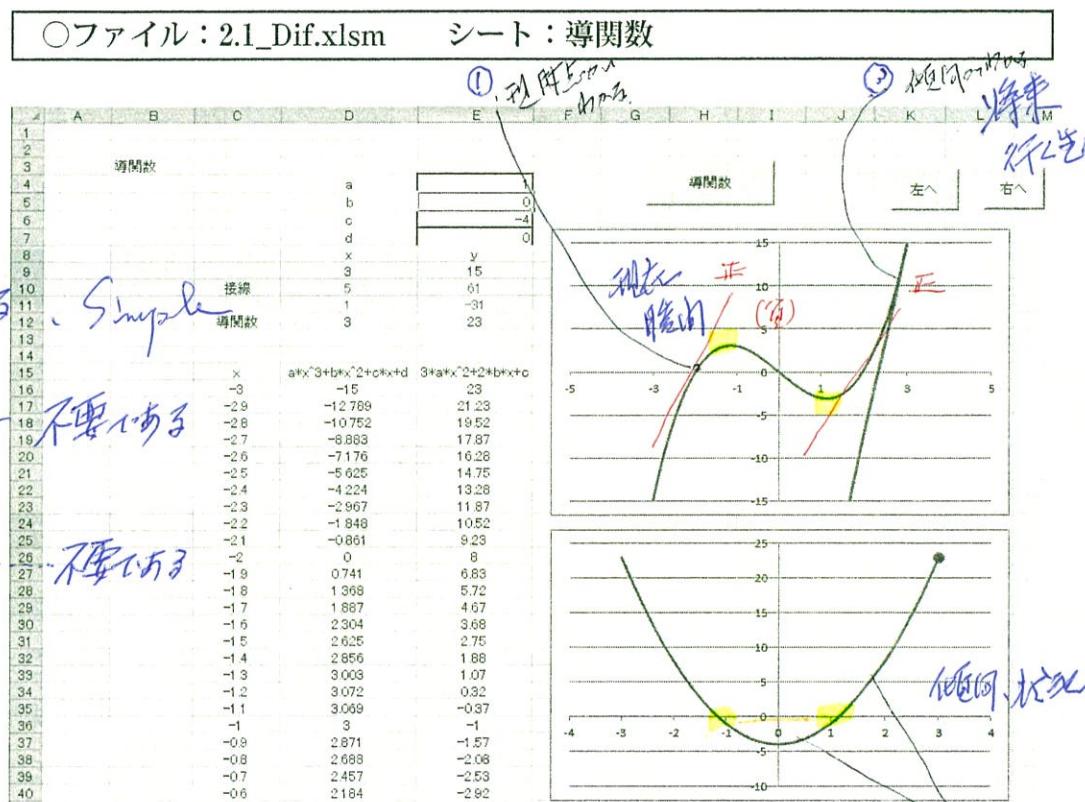
導導数

$$y'' = -9.8 \text{ (m/秒}^2) \quad \text{— 現在
(傾向)}$$

DATE

数」シート見出しがクリックします。

図 2-7 導関数



E列には上で求めた導関数を入力しています。

[導関数]ボタンをクリックすると、 x を-3から3まで0.1刻みで動かしながら、各点での接線を描き進めます。同時に下のグラフでは導関数が描かれていて、上のグラフで接線の傾きの値が赤丸で表示されます。

[左へ]ボタンや[右へ]ボタンは、クリックするたびに接線と赤丸を左または右へずらします。じっくり元の関数での接線の傾きと導関数での接線の傾きの値の関係を確認してください。

この場合、 x が-3から3まで移動するにつれ、元の関数(3次関数)での接線の傾き(急な右上がり)が大きな正の値からだんだん小さくなり(緩い右上がり)、3次関数の左の頂点(山)で傾きが平らになり(導関数のグラフで傾きの値が0)、いったん接線が右下がりになり(導関数のグラフで傾きの値が負)、次に3次関数の右の頂点(谷)で傾きが平らになり(導関数のグラフで傾きの値が0)、それから接線の傾き(緩い右上がり)が小さな正の値からだんだん大きくなります(急な右上がり)。

導関数の表現には、 $f'(x)$ 以外にも $\frac{dy}{dx}$, y' , $\frac{df}{dx}$ などがあります。

$\frac{dy}{dx}$ の場合、

1962年、700人より幹部を集めて開催した会議で、林崎赳氏の下で選出の失敗を批判し、自分はやりからそれを主張しなかったと責任逃れをすると毛は激怒した。

② 元の関数で

(鳥の目)

将来を想定する
(やのの将来)

◆微分の公式

12ページで求めた微分の公式は、同じようにして導くことができます。

地道に計算すると公式はできる！
ということを確認すれば、細かい式の計算は眺めるだけで十分

たとえば、 $y=x^3$ の微分は、

$$(x+\Delta x)^3 - x^3$$

$$= \{ x^3 + 3x^2 \times \Delta x + 3x \times (\Delta x)^2 + (\Delta x)^3 \} - x^3 \\ = 3x^2 \times \Delta x + 3x \times (\Delta x)^2 + (\Delta x)^3$$

したがって、

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = 3x^2 + 3x \times \Delta x + (\Delta x)^2$$

$$(a+b)^3 \\ = a^3 + 3a^2 b + 3ab^2 + b^3$$

ここで、 Δx を小さくすると、 $3x^2 + 3x \times \Delta x + (\Delta x)^2 \rightarrow 3x^2$
よって、 x^3 の微分は、 $3x^2$

$(a+b)^n = a^n + na^{n-1} b + \dots$
この式はムズカシイから
パスしてもいいです

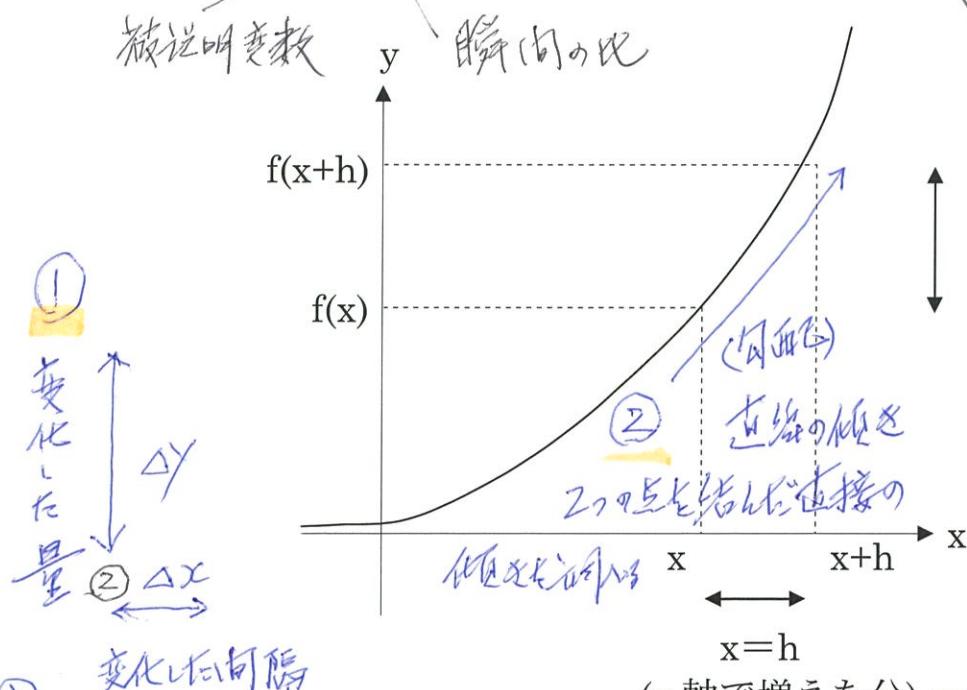
一般に、 $y=x^n$ の微分については、

$$(x+\Delta x)^n = x^n + nx^{n-1} \times \Delta x + \dots$$

となることから、次の公式を導くことができます。

x^n の微分は nx^{n-1}

(3) 微分とは要するに、 x 方向で増えた分量に対する y 方向で増えた分量の比である。 x (横軸) の変化に対する y (縦軸) の変化



$$\Delta y = f(x+h) - f(x)$$

(y 軸で増えた分)

これが何を意味します
平均的、
瞬間的変率の変化ですね。

(x 軸で増えた分) ... 時間の変化

$\lim_{h \rightarrow 0}$ h をどんどん小さくして行くと、最後には x 点での接線、傾き(微分)となる

即ち、 $f(x) = x^n$ は $f'(x) = nx^{n-1}$ となる

(4) まとめ

	もとの関数 $f(x)$	微分した関数 $f'(x)$
①	C (定数)	0
②	x	1
③	x^2	$2x$
④	x^3	$3x^2$
⑤	x^n	nx^{n-1}
⑥	x^{n+1}	$(n+1)x^n$
⑦	$\log_a x$	$\frac{1}{x}$
⑧	a^x	$(\log_a a)x^x$
⑨	$\log_a x$	$1/(\log_a a)x$
⑩	$\log_a f(x)$	$f'(x)/f(x)$
⑪	$f(x) + g(x)$	$f'(x) + g'(x)$

底辺は長い過去

微分は、

今という過去 = 現在を
分析する

なので、分析という。
一分析とは瞬間の変化
をとらえるから。でも
その変化の現在と将来的
意味を明確にするべきだ。

過去は死んでしまったもの
をもと分析しても意味はない。
分析とは現在と将来で
ある。これが運動の底辺の
意味が長い新しい底辺の

5. 微分、積分と次数

(1) 微分すると次数が下がる。

$$\begin{aligned}x^2 &\rightarrow 2x \\x^3 &\rightarrow 3x^2 \\x^n &\rightarrow nx^{n-1}\end{aligned}$$

左の数 = 右
左の計算が軽いです
右の計算が重いです
しかし、

微分は過去の分析。

(2) 微分すると次数が 1 つ下がる。

微分とは次数を下げる。

分析とは次数を下げる。

~~分析とは単純化する。~~

簡単な式

しかし、最も近い点 = 現在を

(3) 次数が下がるとそれだけカンタンになる。

次数が上のものを、1 次下げて調べる。

① 変化するものを直線でなぞる。

接線という直線で、曲線をよりカンタンに調べる。

② その直線の変化のようすが、もとの曲線より 1 つ次数が下のより簡単な式で表される。

(4) たとえば、放物線 $y=x^2$ の変化のようすを調べる場合

$y=x^2$ の曲線を接線でなぞると $y=2x$ となる。

このとき、 x が 1、2、3、4、5... と変わると、 $y=x^2$ の曲線の値は、1、4、9、16、25... となり接線 $y=2x$ の直線の傾きは、2、4、6、8、10... と変わる。

接線の変化のほうがより単純。

(5) 放物線 $y=x^2$ の変化のようすが分からぬときでも、 $y=2x$ (接線、比例式) でカンタンにもとの放物線の変化のようすがわかる。

微分とは変化率を求めるということ。
それは位置を微分すると速度になります。
位置変化率を求め、位置の変化が緩慢であれば
速度が小さい。位置の変化率が小さければ
(か) 速度は小さく遅いということになります。

最適資本構成

(計画を立てる)

会社アライアンスの概要

2009.7 富田直哉 日本学生連盟

1. 7月22日

会員調査

借入金(返済計画)

自己資本(資本比率)

!

使用済資本

2. 7月

(1) 調達すべき資金

K

(2) 借入 他人資本コスト

S

(3) 自己資本 自己資本コスト

T

(4) 調達資金割合 他人貸付割合

V

3. 他人資本の構成割合

$$V = \frac{t}{s+t}$$

最適資本構成

4. MM(モリヤード・ミラー)理論

(1) 法人税の存在しない場合、

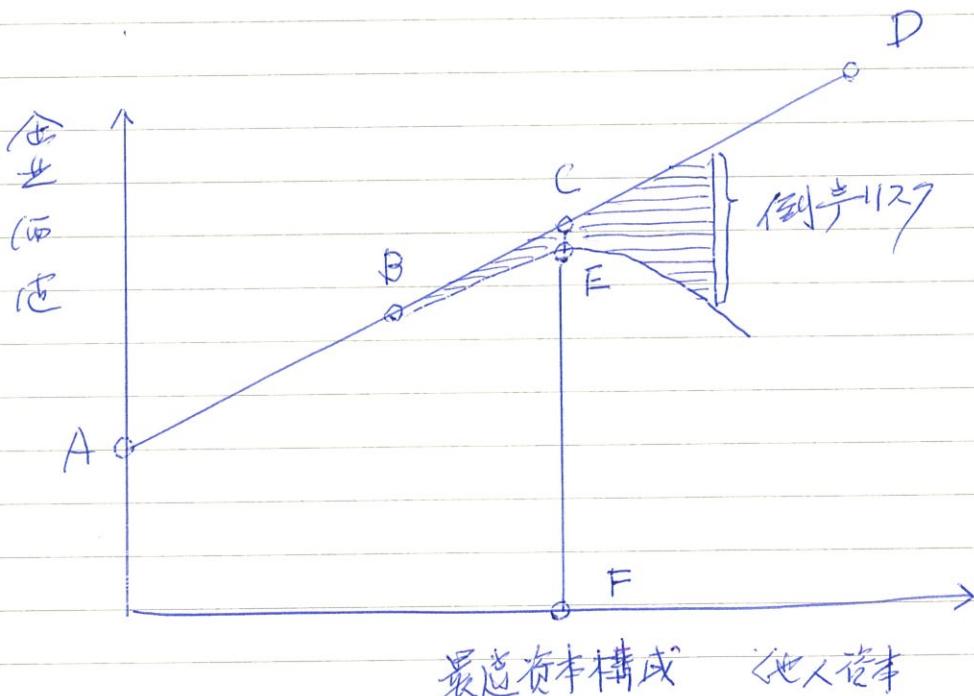
他人資本と自己資本の構成比率は企業価値に
影響を与えない。

(2) 法人税の存在する場合

他人資本の割合が高くなるほど節税効果が大きさ、
企業価値が高まる。

(3) 他人資本の個数

他人資本の増大は倒産リスクの増加につながり、
当座限度を超えると企業価値は減少する。



5. 具体的な投資プロセスの存在

(1) 必要な活動の規模

(2) 他人資本と自己資本の割合

借入金 K

△の増分 dK

時間 Δt

$$\frac{dK}{\Delta t} = \rho K \quad \begin{array}{l} (\text{は比例定数}) \\ (\text{他人資本コスト率}) \end{array}$$

$\frac{dK}{\Delta t} \dots$ 時間に成るする率

$\rho K \dots$ 支払利息

$$\frac{dK}{K} = s \cdot \Delta t \quad (\Delta t \text{は時間・作業量等})$$

$$\int \frac{dK}{K} = \int s \cdot \Delta t$$

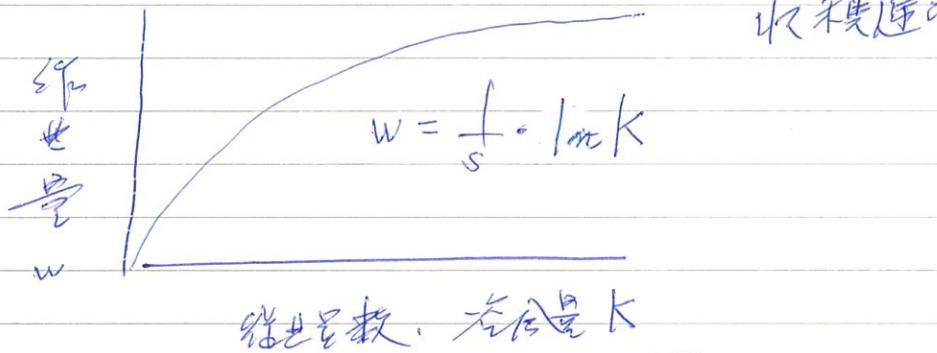
$$\ln K = st + C \quad (C \text{は積分定数})$$

(左辺自然対数 $\log e$)

$$\ln K = st \quad \therefore K = e^{st}$$

6. 収穫遞減

制約条件



他人資本の構成割合 v

自己資本の構成割合 $(1-v)$

自己効率の割合 $K(1-v)$

他人資本を表わす割合 $w = \frac{f_s}{\ln K} v$

自己資本化 \downarrow $w = \frac{f_s}{\ln K} (1-v)$

①

人 黄帝

古文

2018.11.05

No. 古文 1
 Date 2018.07.02
 2018.03.05
 2017.11.20
 2017.09.11
 2016.12.19

黄帝是少典部族的子孙，姓公孙名叫轩辕。

神农氏的后代已经衰败。

蚩尤在各诸侯中最凶暴，没有人能去征讨他。

蚩尤发动叛乱，不听从黄帝之命。于是黄帝征调诸侯的军队，在涿鹿原野与蚩尤作战，终于擒并杀死了他。

跟炎帝在阪泉的郊野交战，先后打了几仗，才征服炎帝。

这样，取代了神农氏，这就是黄帝。

易という字は「トガケ」を侧面から見た象形文字で、上部の「日」はトガケの頭、下部の「宀」は足と尾である。（説文解字）

トガケは十二时虫と呼ばれる体毛長、白い、四脚毛葉元を二つある。

易という字は「变化する」という意味を持つが、元々云ひは、もはう占の原點とねむ。

少典部族 fúcōng 少典部族的子孙 you 蚩尤 yóu er yúan 蚩尤的子孙 十二 古文 ① 大黄子子

黄帝，是少典部族的子孙，姓公孙名叫轩辕。他一生下来，就很有灵性，出生不久就会说话，幼年时聪明机敏，长大后诚实勤奋，成年以后见闻广博，对事物看得清楚。

勤 fēn 勤能

轩辕时代，神农氏的后代已经衰败，各诸侯互相攻战，残害百姓，而神农氏没有力量征讨他们。于是轩辕就习兵练武，去征讨那些不来朝贡的诸侯，各诸侯这才都来归从。而蚩尤在各诸侯中最为凶暴，没有人能去征讨他。炎帝想进攻欺压诸侯，诸侯都来归从轩辕。于是轩辕修行德业，整顿军旅，研究四时节气变化，种植五谷，安抚民众，丈量四方的土地，训练熊、罴、貔（pí，皮）、貅（xiū，休）、犔（chū，初）、虎等猛兽，跟炎帝在阪泉的郊野交战，先后打了几仗，才征服炎帝，如愿得胜。蚩尤发动叛乱，不听从黄帝之命。于是黄帝征调诸侯的军队，在涿鹿郊野与蚩尤作战，终于擒获并杀死了他。这样，诸侯都尊奉轩辕做天子，取代了神农氏，这就是黄帝。天下有不归顺的，黄帝就前去征讨，平定一个地方之后就离去，一路上劈山开道，从来没有在哪儿安宁地居住过。

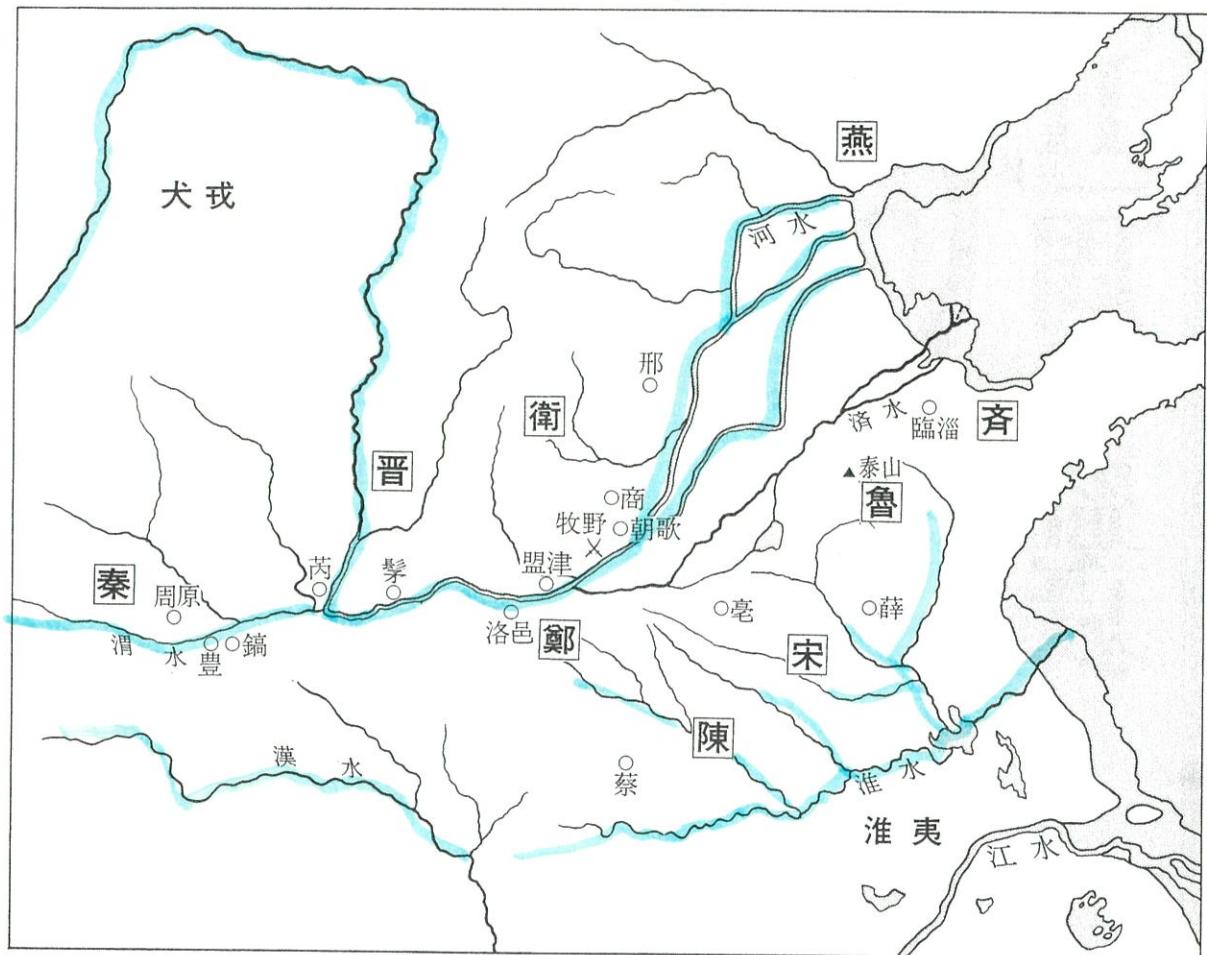
黄帝往东到过东海，登上了丸山和泰山。往西到过空桐，登上了鸡头山。往南到过长江，登上了熊山、湘山。往北驱逐了荤粥（xūn yù，薰玉）部族，来到釜山与诸侯合验了符契，就在逐鹿山的山脚下建起了都邑。黄帝四处迁徙，没有固定的住处，带兵走到哪里，就在哪里设置军营以自卫。黄帝所封官职都用云来命名，军队号称云师。他设置了左右大监，由他们督察各诸侯国。这时，万国安定，因此，自古以来，祭祀鬼神山川的要数黄帝时最多。黄帝获得上天赐给的宝鼎，于是观测太阳的运行，用占卜用的蓍（shī，师）草推算历法，预知节气日辰。他任用风后、力牧、常先、大鸿等治理民众。黄帝顺应天地四时的规律，推测阴阳的变化，讲解生死的道理，论述存与亡的原因，按照季节播种百谷草木，驯养鸟兽蚕虫，测定日月星辰以定历法，收取土石金玉以供民用，身心耳目，饱受辛劳，有节度地使用水、火、木材及各种财物。他做天子有土这种属性的祥瑞征兆，土色黄，所以号称黄帝。)

xūn yù

黄帝有二十五个儿子，其中建立自己姓氏的有十四人。

黄帝居住在轩辕山，娶西陵国的女儿为妻，这就是嫫祖。嫫祖是黄帝的正妃，生有两个儿子，他们的后代都领有天下：一个叫玄嚣，也就是青阳，青阳被封为诸侯，降居在江水；另一个叫昌意，也被封为诸侯，降居在若水。昌意娶了蜀山氏的女儿，名叫昌仆，生下高阳，高阳有圣人的品德。黄帝死后，埋葬在桥山，他的孙子

殷末周初の中国



司馬遷史記工 翻者の条件 1987.11 横山書店より

1978年
三中会議の鄭小平の地位をNOMINEE。しかし、

鄭小平は歴史を流し、その勢力の強大化に対するように

指導陣は頭痛げた。1996年に政治を握ったばかりの華門陣が実質的地位を
迎えられたことに、日本の政治は不変化、海外の資本と技術は中国に遷移
するに伴い危機感は、指導陣は鄭に新たな脅威は、XP付与しかなかった。
鄭自身にとって、算術の取扱上の損害は、おやと実際に掌握していかないから
全くない。华は、党中央、国务院总理、中央军委首長等の地位にとどめ、
鄭と併せて公の場で互いに意見交換など、これまで相手に対する敬意が込められて

中原

モンゴル高原
チベット

遼東半島

朝鮮

银川

北京

天津

中原

延安

西安

洛阳 郑州

山东半岛

上海

黄土高原 黄河的黄沙堆积 农业帝国的形成
周帝国—黄土高原农业帝国

西周 前211年 西周是大戎的侵入而亡、在西周灭亡、诸侯纷争
打转者多，东方崛起此，洛阳从此根据地转移

ことを証拠づける。のちにやつてくる金属時代を消化する素地が、商業的に十分にできていたといつていい。

そのうちにやつてくる殷・周帝国を特徴づけるものは、青銅冶金であった。

青銅という固くて可塑性に富む金属をつくりだしたことは、人類の歴史を飛躍させた。たとえば社会といふ、それによつて保護され、かつそれによつて害されるという複雑な機構のなかに棲息させさせられることになつた。青銅器は家屋をつくるしどとを容易にし、農耕や狩猟の生産力を高め、それによつて食いものを多く得るようになり、比例して人口がふえた。さらには、道具（工具、農具）の種類が多様になつた。

私は道具が人間に好奇心や創造心をおこさせる刺激材であつたと思つてゐるが、その種類を多様に保有した殷・周時代のひとびとは、仰韶人や竜山人にくらべ、形而上的好奇心まで多量にもつことになつたろうと想像する。社会も、広域化した。同時に青銅器を力で独占する権力が成長し、逆比例して奴隸制が深刻になつた。

殷もまた夷（周辺民族）であつたろうという説がある。傅斯年（一八九六—一九五〇）の有名な「夷夏東西説」（一九三五）で、いくつかの考古学的考察をふまえつつ、かつ言語学的に、iロ（殷）とi（夷）の関連にまで論及している。

青銅文化の歴史は、紀元前一六〇〇年ぐらいに成立した殷よりも、西アジアにおいては

るかに古くから発達していたことはいうまでもない。ただ中国にあって、殷が、すでに考
古学的成果であきらかなようだ、助走なしに引きなり（と思われる）絢爛豪華な冶金文化
の華をひらかせるのである。

傳斯年がいう殷のモトが夷であるという説は、満州、朝鮮から山東半島に移動した「東
夷」への想像と重ねているし、また出土している人骨からみても、殷人は黄色人種にはち
がいないが、それが、どういう經緯で高度の青銅冶金技術を手に入れたか、じつにふしぎ
といふばかりではない。ともかくも殷もまた冶金という技術を持って中原の穀倉地域に入り、自
己の文化を持ちこむことによって漢民族文化の形成に決定的な役割を果たした。

殷を倒した周もまた、もとは閔中台地にあつて適度に蛮性の強靱さを持つた周辺民族で
あつた。閔中台地には羌^羌というチベット系の牧畜民族がいて、閔中時代の周民族と不離の
関係にあつたらしいことは、諸文献で十分想像しうる。

中原の黄土層を占拠した周は、殷文化を継承しつつ、やがて青銅冶金術を大いに精密な
ものにした。

ともかくも、異民族がたえまなくその文化を持ちこんでは中原に流入し、王朝そのものは
は興亡をくりかえしこそするが、中原文化そのものは多様な要素を加えつつ、ついにどの民
族もそれを摄取しうるという普遍性の高い文明にまで飛躍するといふこの歴史地理的構造

は、私ども東海の一列島にうまれた者からみれば驚歎に値する。

春秋戦国といふのは、後世からみて、乱世といふ印象がつよい。しかし実際には殷・周がもつていた冶金文化が中原全円に普及し、このため農業生産が騰り、新興の地主が力を得、さらには、官僚、戦士、職人、商人、あるいは思想家といふ非農耕者を社会が余裕をもつて食わせ得るようになつたといふ面でとらえたほうが、より実態にちかい。

北方のモンゴル高原では、匈奴が、遊牧といふ生産形態のまま帝国をなすといふ状態が現出した。

遊牧とは人間が動物を飼うというよりも、羊などの草食動物のむれに人間が入りこみ、かれらとともに水・草をもとめつつ移動する生産形態である。戦前、内モンゴルで遊牧の調査をした今西錦司氏がこのようにその本質を見るまで、人類史上の遊牧の本態があいまいであった。

むしろ狩猟などとともに農業からみれば未開の生存様式のように思われてきた。もちろん、こんにちそのように見てゐる史家はいなくともちがいない。一步踏み進めて、遊牧は紀元前のある時期に出現したとほうもないモダニズムであつたときえいえそうである。

遊牧といふ生産形態を、暮らしのシステムとともにつくりあげ、不動の文明（だれでも参加できる文化）として確立したのは、中国からみればはるかな西方のスキタイ民族であ

たにちがいない)。

ただし、古代中国の鉄が鋳鉄だけでなく鍛鉄もあつたという説があるが、いずれにしても鉄は錆びて土にかえるため考古学的遺物がすくなく、たしかなことは言いたくいようである。

（鉄という生産用の道具が、古代中国の社会を搔きまわし、変質させ、拡大、深化させたことは、形容しがたいほどのことである。

時代でいえば春秋の末から戦国、秦漢時代までのことであつた。

思想史的にいえば、諸子百家の時代といつていひ。

鉄器の普及が、灌溉土木をさかんにし、農地をふやし、商品生産をさかんにし、社会のなかに形而下的欲望と競争心という氣体を発火点にまで充满させたことが、同時に形而上的好奇心を沸騰させた。

あらゆる個性の典型が、それぞれに適合した思想をつむぎ出し、たがいにその異とするところを論争しあう現象がうまれたのは、中国史上最大の壯觀といるべき光景であつた。

百家というのは百種類ほどもある思想家とその団体ということだが、整理すれば、儒家、陰陽家、墨家、法家、刑名家、道家、縱横家などであろう。

「士」という、自分の倫理的、思想的責任においてのみ進退する自由人がむらがつてあら

われ、その多くが、右の「百家」という思想団体のいずれかに属していた、という現象も、ヨーロッパの十八、九世紀を連想させる文明の爛熟現象であるかと思える。

法家思想にささえられた秦が戦国を統一したあと、その統制主義と土木事業によつて流民が生じ、始皇帝の死とともに、庫じゅうの豆俵の底がぬけたように流民が溢出し、秦末の争乱がおきたとき、法家以外の士という士が多様な思想をかけて流民集団の頭目の参謀になつた。

漢の成立のころはまだそういう種類の自由の気がのこつていた。

が、武帝による漢帝国の大膨脹が終熄したあと、社会はしだいに固定し、むしろ退歩を世の正統な姿とする儒教が帝国の国教として社会のすみずみにまで滲透してゆく。同時に、中国の近世にまで及ぶアジア的停滞がはじまるのである。

私は、中国文明史の栄光は、先秦時代から前漢までであろうかという思いをしばしば感ずる。

周辺民族の流入と冶金時代が、中国文明に活力をあたえたことと思いあわせ、その後に来る停滞がふしぎに思われて仕方がないが、このことについては、後漢以後、中原において樹木が極度にすくなかったということと、その現象を重ねあわせて考えることが、ここ十年ほどのあいだ、脳裏を離れることがない。

青銅も鉄も、木炭がつくるのである。中国では古くから石炭も用いられたらしいといふ

説があるが、ともかくも火力を成立させるもとは木炭であつた。

中原は、モンスーン地帯の日本列島のように森林の復元力があるわけではないために、樹を伐られたあの黄土層は一望の野になり、やがて冶金技術者は、楚の地である長江（揚子江）流域に移り、その文化と生産力を高めたかと思えるが、ここでもやがて木炭資源を食いつぶしてしまつた。

社会が保有する鉄器の量がすくなくなつたことと、好奇心の減退ということは重なるであろう。そのことと儒教の根が体制をとりこみ、ついには儒教的人間がすなわち漢民族であるというところにまでゆくかと思えるのだが、このことの論証をするには紙数が尽きてしまつた。